

IASSW メルボルン大会に参加して

岩手県立大学 藤野 好美

2014年7月9日から12日まで、オーストラリアのメルボルンのコンベンションセンターにて開催された“2014 Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development”に参加しました。本務校の業務の関係で前半の2日間のみでの参加でしたが、ソーシャルワークのグローバル定義が承認される場を経験したいという思いで参加しました。

1日目のオープニング・セレモニーは、アボリジニの方のパフォーマンスから始まり、IASSW、ICSW、IFSWの要職の方々からの挨拶がありました。その後の講演は、モナシュ大学のAlston教授による気候や災害の影響を社会及びジェンダーからの側面から報告されたものでした。バングラデシュ等での調査をふまえた研究結果を聴いていて、女性が災害弱者になるといった点では東日本大震災との共通点を感じましたし、また、環境に目を向け介入していくことや社会正義の重要性について改めて理解を深めることができました。

2日目の午前中は、FIELD VISITSのプログラムのひとつである“Uniting Care ReGen”の訪問及び視察に参加しました。“Uniting Care ReGen”は、44年の実績があるアルコールとドラッグにかかわる包括的なサービスを地域に対して提供している非営利団体で、家族プログラム、乳幼児のグループでの遊び、若者へのカウンセリング、認知行動療法をもとにしたリハビリテーション・プログラム、当事者の参加といったことについて説明を受けました。日本では、アルコールやドラッグの問題はフォーマルに対応する機関が充分とは言えず、立ち遅れている領域だと思います。“Uniting Care ReGen”では個別にクリニカルに対応している一方で、コミュニティや環境をといった視点が強調されていて、非常にバランスがとれた実践が行われている印象を持ちました。

2日目午後の公開シンポジウムでは、アボリジニの方々の置かれている状況について当事者であるアボリジニの方々から報告がありました。アボリジニの方々の置かれている状況を聞きながら、オープニング・セレモニーでアボリジニの方のパフォーマンスの意味を非常に大きなものと感じました。オーストラリアに対して、フェアでオープンなイメージを勝手に抱いていましたが、「オーストラリアには人種差別が多くあり、先住民はオーストラリアでもっとも不利な立場にいる」というアボリジニの方々の話に、やはりオーストラリアのフェアな部分を感じるとともに、自国にある人種差別に向き合っていくことの意味を考えさせられました。

2日間しか参加できませんでしたが、ソーシャルワークをグローバルな視点で見える機会となりましたし、様々な国の様々な人種のソーシャルワーカーが集っている場に、自分も参加しているということだけでもエネルギーを充填できました。ソーシャルワークのグローバル定義も承認され、ソーシャルワークはまた新たな展開の時期に入ったのではないかと考えています。次回は2016年6月27日から30日に韓国で開催されるとのこと。隣国での開催ということで、全日程参加するためにも、まずは自らのソーシャルワークにかかわる教育・研究について、さらに深めていこうと思います。